

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	「身体拘束をしないケア」は利用者の人権尊重の上からも、グループホームにおける支援の中核を成す事柄であり、全職員が真に認識し、共有し、利用者を支援すべく研修を企画・実施することを期待したい。	身体拘束のみならず虐待・プライバシー尊重の理解もグループホームでは重きを置かなければならない事柄としっかり受け止め、今までの個人研修だけではなく、施設全体としての相互理解をしていきたいと考える。	年間研修を早急に計画作成し、その中での身体拘束・虐待防止・プライバシー尊重の研修を組み入れる。職員全員の参加を目標にし、参加できない時は、報告書作成し施設全体に周知徹底を図る。	12ヶ月
2	33	利用者が家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活を営み、終わりの場となることは、人生の中で最も尊厳される場であり、そのあり方、支援の仕方を考える事が必要と思われる。その取り組みに向かうことを期待したい。	看取りは人生で最も大切で繊細な事でもあり、安易に実行するのは適切とは思われない。しかし、現在のグループホームの現状からみると、避け難い課題であり、慎重に検討を重ね進めていきたいと考える。	経営母体と検討し、真摯に取り組んで行く。また地域との連携は必須であり、運営推進会議を通して理解協力を求めて行きたい。職員のスキル向上も重要事項の一つであり、研修や実践を通し、全体の底上げを図る。以上の点を達成したうえで、実現に向け進みたい。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。